

## **[成果情報名]フェストロリウムの県奨励品種候補「東北1号」の特性**

**[要約]**フェストロリウム品種「東北1号」は、採草用のイネ科牧草で、罹病程度は小さく3年間の合計乾物収量が最も優れる。

**[担当]** 山梨県畜産酪農技術センター・草地環境科・望月 葉

**[分類]** 技術・普及

---

### **[課題の要請元]**

畜産課

### **[背景・ねらい]**

フェストロリウムは、栄養性の高いライグラス類と、不良環境耐性に優れるフェスク類を交雑した新草種で、排水性が悪く土壌水分の高い水田跡地や転換畑でも高位生産が可能である。そこで、フェストロリウムの活用を進めるため、本県に適する優良品種を選定し、県奨励品種選定の基礎資料とする。

### **[成果の内容・特徴]**

1. 畜産酪農技術センター長坂支所（北杜市長坂町 標高約 700m）における出穂始めは平均で5月8日であり、耐倒伏性は他の供試品種と比べて大きな差はない（表1）。
2. 冠さび病および葉枯性病害の罹病程度は小さく、秋の草勢に優れる（表2）。
3. 採草利用を想定した年3回刈りで、3年間の合計乾物収量は供試した4品種の中で最も多い（表3）。

### **[成果の活用上の留意点]**

1. 栽培適地は中間地から高冷地で、採草の利用に適している。
2. 播種翌年の1番草は収量が多く倒伏しやすいため、刈遅れに注意する。

### **[期待される効果]**

「東北1号」を利用することにより、単収の増加や転換畑での安定生産が可能となり、自給飼料生産量の増加による購入飼料等の削減が図れる。今後、所定の手続きを取り、県奨励品種として指定される見込みである。

## [具体的データ]

表1 生育特性(3年間平均 2017~2019年)

品種名	出穂始め				倒伏程度 <sup>1)</sup>			
	1年目	2年目	3年目	平均	1年目	2年目	3年目	平均
東北1号	4/27 <sup>a</sup>	5/12 <sup>b</sup>	5/15 <sup>b</sup>	5/8	4.0	2.2	1.0	2.4
那系1号	5/4 <sup>b</sup>	5/8 <sup>c</sup>	5/10 <sup>c</sup>	5/7	3.2	2.2	1.0	2.1
イカロス	5/9 <sup>c</sup>	5/19 <sup>a</sup>	5/18 <sup>a</sup>	5/15	3.2	2.3	1.0	2.2
パーフェスト	5/10 <sup>a</sup>	5/13 <sup>b</sup>	5/17 <sup>a</sup>	5/13	3.6	2.1	1.0	2.2

品種名	冠さび病 <sup>1)</sup>	葉枯性病害 <sup>1)</sup>	越冬性 <sup>2)</sup>	早春の草勢 <sup>2)</sup>	出穂程度 <sup>1)</sup>	越夏性 <sup>2)</sup>	秋の草勢 <sup>2)</sup>	最終被度 <sup>3)</sup>
東北1号	1.7	2.7	5.0	5.0	4.7	4.1	4.8 <sup>a</sup>	73.2
那系1号	1.7	2.5	5.0	4.9	4.9	5.1	5.0 <sup>a</sup>	75.7
イカロス	1.7	2.6	5.0	4.2	4.2	3.8	3.9 <sup>b</sup>	61.4
パーフェスト	1.7	3.3	5.0	4.3	4.4	3.7	3.9 <sup>b</sup>	82.7

1)1:無~9:甚または極多 2)1:極不良~9:極良 3)畦が10cm以上裸地となった部分を概略積算(%)し、100から差し引いた値  
縦列の異符号間で有意差あり((a,b: p<0.05 Tukey法による多重検定)

表2 番草別収量性(3年間 2017~2019年)

品種名	乾物収量(kg/a)			
	1番草	2番草	3番草	3年間合計
東北1号	266.9	136.6 <sup>a</sup>	73.8	477.3
那系1号	249.0	108.1 <sup>ab</sup>	86.5	443.6
イカロス	245.5	118.6 <sup>ab</sup>	74.1	438.2
パーフェスト	235.4	103.4 <sup>b</sup>	62.0	400.8
CV%	4.6	8.6	17.2	6.5

縦列の異符号間で有意差あり((a,b: p<0.05 Tukey法による多重検定)

## [その他]

研究課題名：飼料作物優良品種制定普及促進事業

予算区分：委託

研究期間：2016~2019年度

研究担当者：望月 栞、遠藤 美杉、保倉 勝己